

## ——適正洗濯物量の検討——

昭和女大家政 小澤治子 ○上甲久美子

目的 前報で、コインランドリーに設置されている大型洗濯機の1回に洗濯できる洗濯物量の表示が不明確な店が多いことから洗濯物量を各洗濯機の水量との関係について検討したが、今回は更に洗濯槽の広さとの関係について前回と同様、洗浄率、すすぎ率、脱水率について検討した。

方法 ニ重になっている洗濯槽の内槽の底から水面までの体積を計測し、その量に対する浴比を1:10, 15, 20（浴比の調整は補助布を用いた）とし、洗剂量は水量の0.133%（市販洗剤）にて油化協法の汚染布を用いて洗浄率を求めた。すすぎ率は、すすぎ液中の界面活性剤の量をフェロイン試薬法によって求め、脱水率は、脱水後の補助布の重量から算出した。

結果 洗浄率は、大型、小型とも浴比1:10では低く、洗浄率のバラツキも大きく、攪拌式では特に洗濯槽の上部の洗浄率が低く、1:15では洗浄率も上昇し、バラツキも低下した。また、洗浄率は、洗濯用水の温度も影響し、特に冬季お湯が使用できない洗濯機の洗浄率は低く、小型洗濯機は、水しか使用できない店が多いことが問題点として残った。大型洗濯機は、一部の洗い時間の短い、攪拌速度の低い洗濯機以外は、洗濯物量、使用洗剂量が適正であれば、聞き取り調査で「汚れ落ちが悪い」との指摘があったが、特に洗浄率が低いとはいえなかった。しかし、すすぎ率は、すすぎ回数、温度、脱水率が影響するが大型洗濯機は、脱水率が一般に低く、かつすすぎ回数が1回のものであったため、浴比を大きくしてもすすぎ率が低かった。